



校長だより

日中丸



第23号
R1. 12. 4

日間賀中学校長
鈴木 康弘

※イラストは、本校生徒 宮地志奈さん が作成

第8回 日間賀サミット 12.2(月)

第8回日間賀サミットが開催されました。今回のテーマは「もっと『ふれあい』あふれる温かい島にしよう」です。小中学生や島民の方々、教員、あわせて80名を超える参加がありました。

観光協会の青年部の方から、日間賀島に対する熱い想いをお聞かせいただきました。その後、ラウンドスタディ形式で話し合いを行いました。ふれあいをもつことや深めることなどについて真剣に話し合われました。あいさつをすることや一緒に活動することなど様々な意見が出て、まとめの発表では、どのグループからも「あいさつ」「笑顔」というキーワードが聞かれました。サミットの最後には、女将会の方から、日間賀島で育ったことに誇りをもってほしいことという想いを聞かせていただきました。

今回は、コーディネーターと記録を生徒が行いました。その様子は堂々としていて頼もしかったです。さすがは日中生と感心しました。真剣な話し合いの中にも笑顔の絶えないサミットとなりました。

参加いただきました皆様、ありがとうございました。



生徒発表（12月のテーマ：人権について）

鈴木麻衣乃さん（1年）

私たちは保育園の時からずっと同じ友達で中学校を卒業するまで過ごします。中学校を卒業するまであと2年間、今より友情を深め思いやりの心を育てるために、25人で協力し合い学校生活を送りたいと思います。

自分で気をつけようと思うのは、言葉遣いです。何気なく言った言葉が相手を傷つけているかもしれないからです。相手の気持ちになって、優しく接することができますようにしたいです。そして、落ち込んでいる人や悩んでいる人がいたら、励ましてあげたいです。困っている友達がいたら、勇気を出して声をかけたいと思います。

みんなが同じ気持ちでいれば、いじめのない思いやりのあるクラスになれると思います。大切な25人の友達と楽しく学校生活を送れたらいいなと思います。

北川竜盛さん（2年）

僕が「人権」と聞いて頭に浮かんだことは、いじめと差別です。いじめは、僕たちにとって身近なことで、今ではテレビや新聞などのニュースでも取り上げられています。最近では、教員いじめなどもニュースで見たことがあるので、大人の中でもいじめはあるんだと思いました。

差別は、人種差別や男女差別、障害者の方などへの差別があります。差別は、日本中だけでなく世界中であることなので、そんなに簡単になくならないものだけれど、絶対にあってはいけないものなのでなくなってほしいです。

いじめの差別も、地球上にあってよいことは何もないと思うのでなくなってほしいです。これからは、困っている人をみたら助けられるような人になりたいです。

金原心愛さん（3年）

私が「人権」と聞いて最初に思い浮かんだことは、差別の問題です。差別の種類は、人種差別、男女差別、身分差別などがありますが、私が最近気になっているのは、LGBTの人への差別です。

LGBTとは、セクシャルマイノリティのことで、日本語に直すと、性的少数者という意味です。世の中には、男の人が女の人を好きになり、女の人が男の人を好きになることが普通だと思っている人が多いそうです。しかし、女の人が女の人を好きになり、男の人が男の人を好きになることもあります。

私はどちらも同じ愛だと思います。人が人を好きだけであって、それを少数か多数かで差別するのはおかしいと思います。今では、テレビなどでLGBTの方々が多く活躍しています。その人たちによってLGBTへの理解が広まって、差別や偏見がなくなればいいなと思います。

校長の話

こんな話をしました。

12月4日から12月10日までは「人権週間」です。最終日の12月10日は「世界人権デー」と定められています。人権を尊重するというのを易しく言い換えると、「自分を大切にすると同じくらい、他人も大切にすること」です。「困っている人や悲しんでいる人、寂しがっている人を見たら、その人の気持ちを自分の気持ちに置き換えて考えられる人になる」ということです。「人権週間」というのは、改めてそういうことを考えたり自分を見つめ直したりする1週間です。

人権週間に合わせて話をしようと思っていたとき、あるテレビCMが目にとまりました。女の子の人形2人が「何かあったら連絡するね」「何もなくても連絡してね」と言いながら歩いていて、最後に「ひとり暮らしは、ひとりじゃない」とテロップが流れるというCMです。

このCMを見ていて、「マザー・テレサ」という人の言葉を思い出しました。「マザー・テレサ」という人は、1979年にノーベル平和賞を受賞した人で、人を幸せにするために、どれだけ愛を与えることができたかを活動の中心にしていました。彼女が残した言葉に「愛の反対は〇〇」というものがあります。「愛」の反対はなんだか分かりますか。それは、私も含めて、誰もがいやなことです。悲しいことです。マザー・テレサは、「愛の反対は、憎しみではなく、無関心だ」といいます。この世の中で必要のない人などいません。誰もが、かけがえのない「命」をもった大切な人間です。だから、何が大切かという、まわりをよく見て関わることです。つまり、自分にも、友達にも、まわりの人たちにも、地域の人たちにも関心をもつことです。だから、「愛の反対は、無関心」なのです。

そして、人として一番してはいけないことは、無関心でいることです。例えば、誰かが悲しい思いや辛い思いをしたりいじめられていたりしていても、見て見ぬふりをするとか…。大人の私でも、職場や家庭で誰も話してくれないのは悲しいことです。

日間賀中学校の先生たちは、決して見て見ぬふりはしません。もし、困っていること、悩んでいることがあったら、遠慮なく相談してください。担任の先生、教科担任の先生、部活の先生、誰でもかまいません。相談を受けたことについては、一緒になって解決に向けて考えていきます。それは、自分のことだけでなく、友達のことでも結構です。悲しい思いや辛い思いをしている友達がいたら、見て見ぬふりをするのではなく、自分のこととして考えてください。

「愛の反対は、無関心」です。自分を大切にすると同じくらい、他人も大切にしてください。日間賀中学校を「愛」のあふれる学校にしましょう。